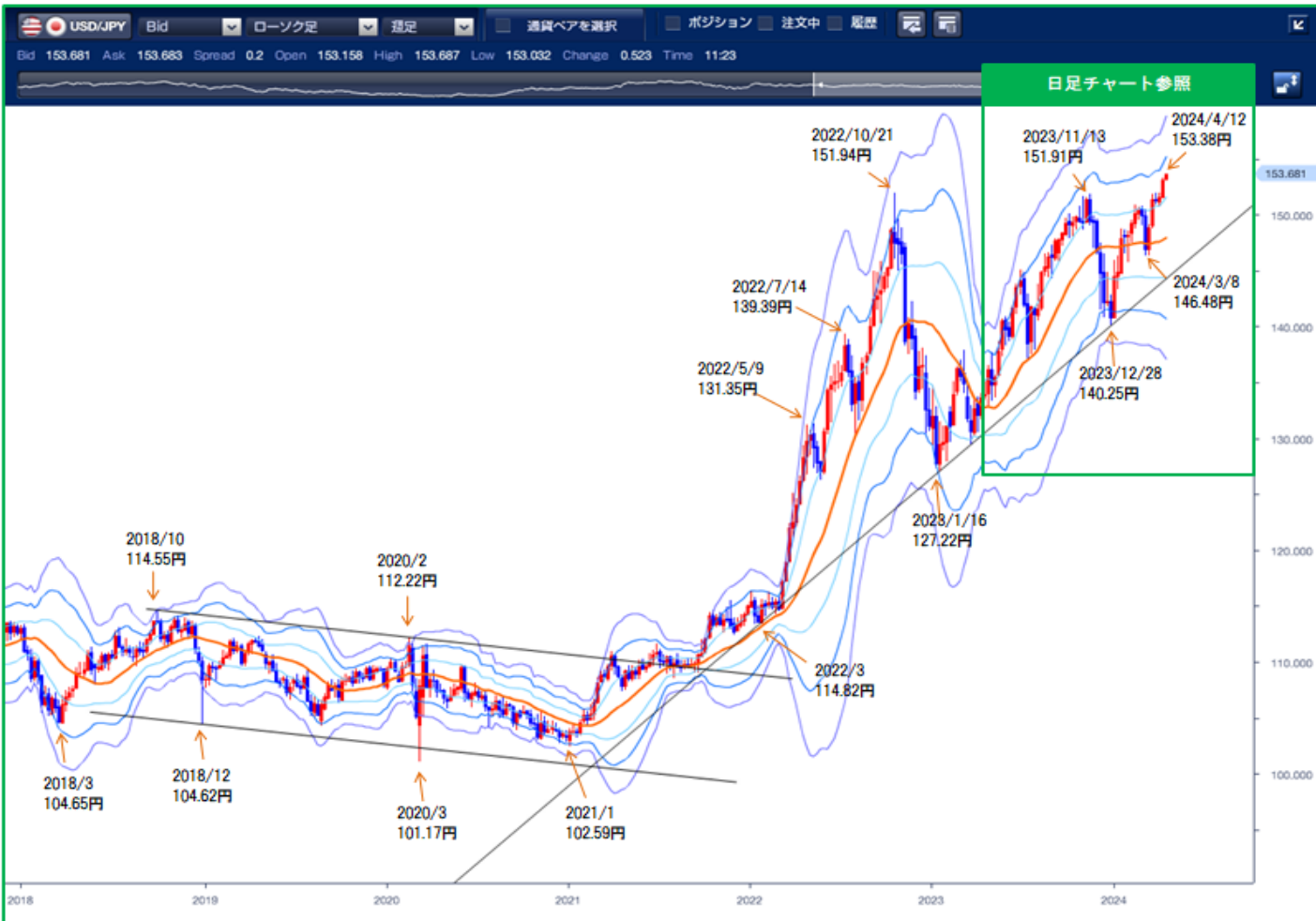


週足



長期概況

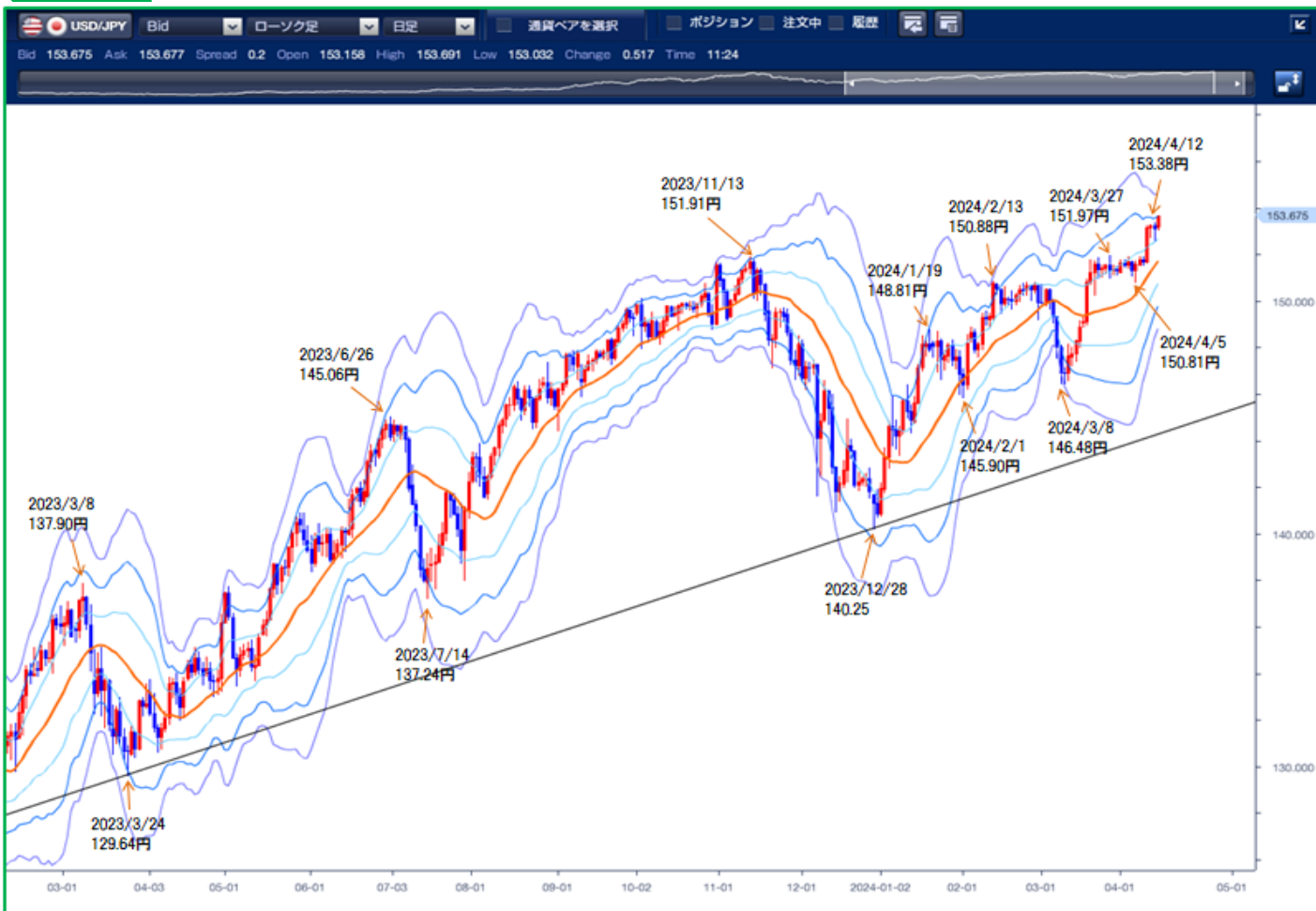
2021/1/6の安値102.59円を起点とした上昇トレンドは、2022年3月のFOMC会合における利上げ開始後、上昇ペースを早め、151.94円(2022/10/21)まで上昇しました。その後、政府・日銀による円買い介入や、米インフレ率の鈍化を理由として、調整の流れが強まり、127.22円(1/16)まで下落しましたが、日米金利差を背景としたドル買い円売りは根強く、再び151.91円(11/13)まで値を戻しました。その後、2023年末にかけて日銀による金融政策変更観測やFRBの利下げの思惑により140.25円まで下落しました。ただ、日米金利差に着目したドル買いは継続し、3月日銀会合で17年ぶりとなる利上げが決定されたものの、緩和政策は維持されると見方から円売りが優勢となり、1990年以来の高値となる151.97円まで上昇しました。

【2024/4/8~4/12】

4月第2週のドル円は、1990年6月以来、約34年ぶりの高値となる153.38円まで急伸びました。4/10発表の3月消費者物価指数が、前月比、前年比ともに予想を上回り、同コア指数も強い結果だったこと受け、1990年6月以来、約34年ぶりとなる153.23円まで急騰しました。その後も米10年債利回りの上昇を支えに、153.38円まで高値を更新しました。4/12「イランの報復攻撃が48時間以内にも行われるとみて、イスラエルは備えを進めている」との一部報道が伝わると中東の地政学リスクの高まりを受け、リスク回避の円買いが優勢となり、152.59円まで下落しました。ただし、ボスティック米アトランタ連銀総裁による「今年は年末にかけて1回の利下げ」「私は利下げを急いでいない」、デイリー米サンフランシスコ連銀総裁による「政策金利を調整する緊急性は全くない」との発言から、米金利早期利下げ観測が後退し、153.32円まで値を戻す底堅い展開となりました。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは、中心線が穏やかな上向きとなっており、上昇を示唆しています。
 週足ボリンジャーバンドは、中心線が横ばいで、もみ合いを示唆しています。
 以上のことから、4/15~4/19の週間予想レンジは以下の通りです。

◆ 予想レンジ 152.70円~154.60円

注目レート		テクニカル
上値②	154.60	・日足ボリンジャーバンド +3σ 近辺
上値①	154.00	・大台
下値①	152.70	・日足ボリンジャーバンド +1σ 近辺
下値②	151.80	・2024/3/8安値146.48から2024/4/12高値153.38のフィボナッチ23.6%押し近辺

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。